

人口減社会に不安心

少子高齢化で国内人口が減り、県人口は昨年8月に200万人を割り込んだ。上毛新聞社と群馬大社会情報学部が共同で行った県民世論調査では、人口減少社会に多くの県民が不安を感じ、経済的負担の軽減を含め、安心し

て子育てできる環境を求めていることが分かった。また、昨年問題となった高齢者の所在不明や孤独死の背景に、一人暮らしの増加や家族の結びつきの希薄化があることがうかがえた。

県民世論調査 上毛新聞社・群馬大社会情報学部

○人口減少で不安心に感じること(複数回答) (単位:%)

年金制度、介護保険など社会保障制度の維持

72.2

税収減に伴う行政サービスの低下

44.8

経済の縮小

22.3

中山間地の過疎の深刻化

12.8

人材・労働力の不足

12.1

地域文化や活動の維持

8.8

教育への影響

6.9

その他

1.3

不安は感じない

5.7

▲ 0 10 20 30 40 50 60 70 80



「社会保障」に7割危機感

人口減への不安では年金制度、介護保険など社会保障制度の維持を挙げた人が7割を超えた。「税収減に伴う行政サービスの低下」も半数近くが指摘しており、社会の活

不安

力源である人が減ることが、厳しい財政状況と生活不安を招くとの認識がつかがえる。経済の縮小(22.3%)も懸念されており、中山間地の過疎深刻化、地域文化継承を含めた地域社会の維持に対する危機感も浮き彫りになった。

本県の基幹産業である

製造業は成長を続ける

中国、インドなど新興

国市場を取り込んでい

く戦略がより一層求め

られている。このほか

中山間地の過疎深刻

○人口減少について (単位:%)

どちらかと言えば期待3.9

期待1.3

不安

28.6

どちらかと言えば不安

43.3

どちらとも言えない・分からぬ22.8

期待

「高齢者の社会進出増加」3割

マイナス面ばかりではない。人口減に期待することでは、「高齢者の社会進出の機会が増え」が3割を超えている。高齢化が進むと多いた。少子化で将来的に労働力不足が指摘されるが、年を取つても生きがいを持つて働き続けられる環境づくりが課題になりそうだ。同様に「女性の社会進出が増える」との

- 声も2割近くあり、「交通・観光地などの混雑緩和」「18歳もプラス要素」があり、「進学競争、就職競争が緩和するとの見方」がある。また、「高齢者が住みやすい環境整備」「健やかな高齢社会」なども見られる。
- 一方で、「過密、競争社会から逃れたい」とした社会環境へ移行が期待される。
- ①企業誘致 41.1
 ②住宅の増加策 6.1
 ③住民税や国保税など税負担の軽減 47.3
 ④子育て環境の整備 46.4
 ⑤高齢者が住みやすい環境整備 30.0
 ⑥その他 2.2
 ▷自然増(出産による増加)のために
 ①出会いの場づくり 20.7
 ②出産にかかる費用負担の軽減 20.3
 ③子供の医療費負担の軽減 21.3
 ④保育所の増設など子育て支援環境の充実 46.7
 ⑤教育にかかる費用負担の軽減

施策

「子育て環境」へ要望強く

人口減に関しては「不安」「どちらかと言えば不安」を合わせるとおよそ7割。年代別にみると、20代が6ついて聞いたところ、人口減少の抑制策に

「子育て環境」へ要望強く

割にとまる一方、60代、70代では8割近くが不安と答えた。自然増(出産による増加)については、保育・教育費、子供の医療費への支援のほか